

2009/02/24

2008年 東京大学教養学部 冬学期
全学ゼミナール「地球温暖化と経済学」講義感想文
(履修登録者 11名、合格者 10名、感想提出者 9名)

山口 光恒

1、文科Ⅱ類1年

一年間を通した講義はとても有意義なものとなった。環境経済学に少し興味を持っていた私は、環境経済学の基礎的知識を身につけると同時に、複雑な地球温暖化問題に対する知識と問題意識をこの講義で得ることができた。マスメディアの報道とは異なる、現場の専門家の正確な知識や貴重な経験を聞くことができてよかった。また、後半でおこなったディベートでは議論の仕方、データの扱い方などを学ぶこともでき、緊張感をもって授業に臨むこともできて貴重な時間を過ごすことができた。今まで一年間お世話になりました。

2、文科Ⅱ類1年

大学1年というまさに初学者である私たちのために、基本的な経済学の説明や環境問題の一般的な性格など基本的なところから説明をしていただいたため、その後具体的な政策や、個別のテーマ毎の環境問題の話などに入ったときにも、その問題点を捉える視点を得ることが出来たと思います。また、IPCCに勤めていらしたり、OECDの会議に政府代表として出席されている山口教授のお話は、環境外交の最前線を伺うことができ、とても貴重な経験となりました。

一年間講義を受け、印象に深く残った内容が幾つかあります。一つは、日本はあまりコストを計算して政策を決定しないが、やると言ったことは罰則がなくてもやる性格である、ということです。環境問題が外部不経済から生じたものである以上、環境問題のコスト分析が重要となるが日本政府はそれをあまりしない、ということは頼りなくも感じましたが、環境問題の不確実性を考えた上では、そのような姿勢も時には必要となるのではないかも感じました。二つ目に、マスメディアの報道が、決して正しいものではない、ということです。教授が国際会議の声明文書とマスメディアの報道文書の比較などをされて、その違いを実感しました。また、環境問題が外交問題の性格を持っていることも印象深かったです。

ゼミナールの講義で、環境問題の様々な側面を学び、改めてその難しさを実感し、また、討論会などを通して、相手を説得させることの難しさや、それを通じて国際問題としての環境問題の難しさを実感することが出来ました。これからの時代、ますます環境問題が重要なテーマとなっていくと思われませんが、この講義で身につけたことを元に、その動きを

正確に捉えていきたいと思います。

また、教授にはイタリアントマトでのお食事会などで、様々なお話をして頂き、また助言をかけて頂いて、貴重な経験を得させていただきました。

一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

3、文科Ⅱ類1年

一年間この講義を受けて得られたことは、今まで受けたどんな講義から得たものよりも大きかったと感じています。温暖化問題やその対策に関してたくさんの知識を得られたことはもちろん、先生が講義中、あるいは、授業後の集まりの中でおっしゃられた一言一言がそれまでの自分にはなかった、非常に新鮮な考えであり、新たな見識を多く得ることができました。また、2回開かれた討論会では、頭の中では分かっているが、それを相手に的確に伝えることの難しさや、他の人の主張を瞬時に理解し、それに対する自分の考えを組み立てることの必要性など、実際にその場に置かれてみないとわからないことを多く学ぶことができました。

なにより、地球温暖化という問題の「面白さ」を知ることができました。先生の講義が終わってしまったことは非常に残念ですが、今後も自分で地球温暖化に関して勉強してより深い知識を身につけていきたいと考えています。

一年間本当にありがとうございました。

4、文科Ⅱ類1年

現代社会で生じている問題について、経済学の観点から議論することは陰鬱で拝金主義的にみられがちであり、特に温暖化をはじめとする環境問題に関してはその傾向が強いように思う。ハイエクの、「人はその直接の野望についてのあらゆる拘束に我慢し切れず、そして耐えようとしなくて、経済的必然性に屈服しようとはしない。われわれの世代を特徴づけるものは、物質的福祉に対する軽蔑または物質的福祉に対する欲求の減少ではなくて、反対になんらかの障害、または自分自身の欲求の達成を妨げる他の目的との衝突を認めないことである。」（『隷属への道』より）という言葉は温暖化問題にも当てはまり、この「自分自身の欲求」が温暖化においては環境保全という道徳的熱意によるものであるためにいっそう経済学への反発が生じやすく強烈であると思う。それでもなお、経済学の考え方が根本的に不可欠であると授業を通じて学ぶとともに、その一方で実際の政治の場では必ずしも学問的正当性が通用する訳ではないという歯痒さも感じた。

授業で学んだことを踏まえ、今後も温暖化問題の進展について時に批判的な目を持って注視し続けていきたい。

5、文科Ⅱ類1年

この一年間はとても多くのことを学ばせていただきました。もちろん、21世紀に生きる身としては不可欠な地球温暖化に関する「正しい」知識も多く身に付きましたが、それ以上のことを、先生のお話し下さるいろいろなお話から学び取ることができました。一つ目はメディアに対する批判的考察です。多くの情報をメディアに頼ってしまっている私達はその報道を鵜呑みにしてしまいがちですが、そこには少なからず歪んだ情報が含まれており、それを見極める必要があるということを感じました。そのためには、広く深い教養をもつ必要があるということも強く実感しました。2点目は日本人としての特質に対する誇りです。自虐的に捉えがちな日本人の特質は、確かに国際交渉において不利な場合もありますが、逆に未来を見通すうえで大きな美点であるということに気付きました。日本人の「特徴」ではなく「特長」としてその性質に誇りを感じ、またその欠点を自覚して補う必要があると感じました。

本当に実りある授業で、1年の最初から刺激のある授業を受けることができ非常に幸運だったと感じています。1年間ありがとうございました。

6、文科Ⅱ類2年

経済学部に進学する自分が先生の講義を取ることに少し迷いがありました。というのは、金曜5限は経済学部の専門科目のある時限であったからです。でも今は後悔していません。専門科目と同様あるいはそれ以上に学ぶことができました。また冬学期はゼミならではの討論もあり、他のゼミ生からも知的好奇心の刺激を受け、非常にためになりました。「知っているだけでは意味がない」と温暖化対策で最も重要なのはやはりそれを「知る」ことだと思います。知は人間の行動を変えたいと思います。今後自分はこの講義で学んだことを何らかの形で多くの人に伝えていけたらと思っています。

7、理科Ⅰ類1年

1年間、山口先生のゼミを取って、排出権取引だけで地球温暖化はある程度防ぐことができるものと思っていましたが、少なくとも事態はそれほど単純ではないということが理解できました。授業で学習した環境税やCDMなどの他に、このレポートを作成するに当たっていろいろと勉強しましたが、今まで新聞がホットな話題として扱う地球温暖化問題を、新聞からの知識を得ただけでいわゆるリベラリズムの優越感を感じていたことがわかりました。実際に経済学的視点、技術的視点から自分で捉えなおすと、漠然と感じていた問題を具体的に見通せるようになりました。3学期の授業でも、こうしたレポートを作る講座を取りたいと思います。このレポートについてですが、テーマとして、実際削減していく

うえでどのような技術でどの程度削減していくのかを追求することにしました。理想としていたものは推理小説みたいに、いろいろなデータを検証しながらあじやないかこうじやないかと論証したものでしたが、結局は文献の知識を引用、紹介し自分の考えを述べるにとどまってしまうました。図書館の地下一階でデータのための資料からレポートを作ることには挫折してしまいました。結局3, 4回のすでに解説が付いている文献を参考にしました。主体的にテーマを定めたこと、理解度においては夏学期を上回る出来だと思えます。今回はエネルギー需要面を主に調べましたが、エネルギー供給面の技術についても調べていました。しかし、例えば原子力プラントでは核分裂の原理ぐらいしか分からず、将来的に経済性を獲得する上でどのようなビジョンがあるかは僕の今の力では解明できませんでしたので、ページ数との関係も考慮して割愛しました。

最後に、1年間どうもありがとうございました。

8、理科Ⅰ類1年

経済の方面から捉えた温暖化について広い範囲で学習できたのが良かった。一年という短期間では詳細まで網羅する授業は不可能であり、その際、分野を絞って詳しくやるよりも、広く浅く様々な分野に触れる方が、興味を持つ可能性が増し、また全体の理解には役立つと思う。

解説が分かりやすく、授業内容の理解がしやすかった。レジュメを見ながらその内容について解説をする、という形式でありながらも、十分に理解ができるわかりやすい授業形式であり、今後も継続すべきだと思う。

参考文献が多い。口頭説明の内容をすべてメモに取り、また記憶することは極めて難しい。その日の授業をよりよく理解しようとするために、レジュメの最後のページに付属された参考文献を読もうと思っても、数が多いためすべてを読むことは困難である。参考文献の中でも、特に読むべきものを取り上げておくと良かったかもしれない。

9、理科Ⅱ類1年

経済学を主軸として、地球温暖化、世界各国の対策の実情、国際関係を見てきた一年は、理系である私には新鮮味と意外性に富み、とても充実していました。温暖化対策で重要なのは技術の発展と普及であることが強く意識されるようになり、そのためには各国の事情に対応し、かつ経済的な合理性のある技術、普及政策を考えるようになりました。また、授業冒頭の『雑談』と称されていた体験談や、イタリアントマトでの会食での会話も、勉強机では学べない訓戒が得られ、とても満足しています。このような少人数自由ゼミならではの企画はぜひ続けて頂きたいです。特に、ディベートでは、失敗した分学ぶべき点が詳らかになったので、良い経験になりました。

一年間お世話になりました。ありがとうございます。